

令和元年度事業報告

A. 事業活動【事業財団全体】の概要

本年度のサービス活動収益は 1,495,025 千円で前年度より 122,416 千円増、サービス活動費用は 1,428,164 千円で前年度より 73,706 千円増となりました。サービス活動費用のうち人件費は 936,885 千円で前年度より 54,236 千円増となり、その他費用につきましては 491,279 千円で前年度より 19,470 千円増となりました。

この結果、サービス活動増減差額は 66,860 千円で前年度より 48,710 千円増、経常増減差額は 63,488 千円で前年度より 42,975 千円増となりました。

本年度の介護部門における事業活動の特記事項及び前年度との差異は次のとおりであります。

第1 サービス活動収益の増は、ふれあいの丘のリニューアル工事に伴いふれあいの丘ショートステイを令和元年8月に開設し運営してきたこと及びスリーハートの丘グループホームにおいて2ユニットが年間を通して運営できたこと等の結果であります。

第2 サービス活動費用のうち、人件費の増は主としてふれあいの丘ショートステイの開設に伴うものであります。

人手不足の中で採用はますます厳しい状況にあり、採用のための人材紹介会社への紹介手数料が増加する等の影響が出ております。

その他経費の増につきましては、事業の拡大等が主たる要因であります。

長野こども学園は、「認定こども園」として2年目になり、年間を通して順調に運営できました。また令和元年 10 月から保育料無償化が始まり、1号認定から2号認定への変更及び給食費の設定等の手続きを行いました。

今後につきましては、通所介護で特に顕著であります介護業界での競争激化の中で他施設との明確な差別化を図るためにさらなる介護メニューの充実及び介護レベルの向上等に精力的に取り組んでまいります。

なお、新型コロナウイルス感染蔓延による影響を見極め、必要な対策を迅速・的確に実施してまいります。

B. 事業活動【各施設】の概要

1) スリーハートの丘

(1) スリーハートの丘事業報告

本年度は、特養・ショートステイについては、4月より特養の定員を80名から90名にショートステイの定員を20名から10名に変更となりました。また、グループホームについては本年度が初めて1年を通じて稼働した年とな

りました。本年度のサービス活動収益は 611,601 千円で、前年度比 14,838 千円増となりサービス活動増減差額は 18,573 千円と前年度比▲1,399 千円となりました。減益の理由としては、新卒入職者の人件費増及び寺ヶ池の稼働減によるものであります。増収減益となりました。

(2) サービス区分ごとの概要

- ① 特養は、1 日平均目標ご利用者様数が目標の 86.4 名に対して 86.6 名の結果となりました。結果サービス活動収益が 453,003 千円にて前年度比 50,261 千円増、人件費は 258,738 千円にて前年度比 31,642 千円増、その他費用は 152,786 千円にて前年度比 13,714 千円増となりサービス活動増減差額は 41,478 千円となり、前年度比 4,904 千円増の結果となり増収増益となりました。
- ② ショートステイは、1 日平均の目標ご利用者様数は、8.8 名に対して 8.9 名の結果となりました。結果サービス活動収益が 45,323 千円にて前年度比▲42,707 千円となり、人件費は 30,282 千円にて前年度比▲17,586 千円となり、サービス活動増減差額は▲683 千円と前年度比▲10,518 千円となり、減収減益となりました。
- ③ グループホームは、入居者様の 1 日平均目標は 17 名に対して 17 名通所に関して 1 日平均目標は 3 名に対して 2.5 名の結果となりました。結果サービス活動収益は 89,472 千円となり前年度比 12,483 千円増、人件費は 60,032 千円にて前年度比 4,319 千円増となり、サービス活動増減差額は 1,165 千円にて前年度比 4,167 千円増となり増収増益となりました。
- ④ デイホーム寺ヶ池は、1 日平均目標 8 名に対して 5.5 名の結果となり、ポスティングや家族様の招待企画等様々な検討を行うが、直接の結果には結びつかなかった結果となりました。サービス活動収益は 23,601 千円となり前年度比▲5,269 千円にて、人件費は 20,235 千円にて前年度比▲4,724 千円にて、結果サービス活動増減差額は▲3,965 千円となり前年度比▲505 千円となり減収減益となりました。

(3) ご利用者様の状況

(感染症)

スリーハートの丘では本年度に感染症の発生事例は生じませんでした。

2) ふれあいの丘

(1) ふれあいの丘事業活動

本年度のサービス活動収益は 215,665 千円で前年度より 57,103 千円増加しました。一方、サービス活動費用は 215,672 千円で前年度より 58,512 千円増加しました。サービス活動費用のうち、人件費は 139,131 千円で前年度

より 37,886 千円増加となり、その他費用は 76,541 千円で前年度より 20,625 千円増加しました。

その結果、サービス活動増減差額は▲7 千円で前年度より▲1,408 千円となり、増収減益となりました。

本年度の活動結果と前年度実績との主たる差異要因は、居宅介護支援事業、地域包括・介護予防事業、デイサービスが増収増益になったものの、令和 1 年 8 月に事業開始したショートステイが、開業に伴う費用の影響でサービス活動増減差額が大きくマイナスになったことによるものです。

(2) サービス区分ごとの概要

- ① デイサービス（定員 25 名）は、年間利用者数は 4,784 人で前年度より 169 人増加したことから、サービス活動収益は 44,683 千円と前年度より 30 千円増加しました。一方、サービス活動費用は人件費、その他費用が共に減少したことから 50,316 千円となり前年度より▲3,181 千円となりました。その結果、サービス活動増減差額は▲5,633 千円となり前年度より 2,865 千円増加し、引き続き赤字ではあるものの増収増益となりました。
- ② ショートステイ（定員 20 名）は、令和元年 8 月に新たに開始した事業である。平均稼働率は想定を上回る高いレベルを維持できたが、開業に伴う費用の影響でサービス活動増減差額はマイナスとなった。サービス活動収益は 45,137 千円、サービス活動費用は 57,068 千円、サービス活動増減差額は▲11,931 千円となった。
- ③ 居宅介護支援事業（ケアプラン）は、前年度を上回る事業活動ができたことから、サービス活動収益は 45,084 千円と前年度より 2,839 千円増加しました。一方、サービス活動費用は 36,068 千円となり前年度より▲349 千円となりました。その結果、サービス活動増減差額は 9,015 千円で前年度より 3,188 千円増加し、増収増益となりました。
- ④ 地域包括・介護予防（河内長野市中部包括支援センター）は、河内長野市からの委託事業であり、本年度から新たに「認知症施策推進事業」が委託されたことにより、サービス活動収益は 78,216 千円と前年より 9,364 千円増加しました。一方、サービス活動費用は、担当エリア内高齢者数増加に伴う職員 1 名増員による人件費増加を主たる要因として、67,684 千円となり前年度より 4,815 千円増加しました。その結果、サービス活動増減差額は 10,531 千円で前年より 4,548 千円増加し、増収増益となりました。
- ⑤ 配食事業は河内長野市からの委託事業であり、年間配食数が 4,869 件で前年より▲108 件であったことから、サービス活動収益は 4,278 千円となり前年度より▲117 千円となりました。一方、サービス活動費用は 6,208

千円と前年度より 248 千円増加しました。その結果、サービス活動増減差額は▲1,929 千円で前年度より▲349 千円となり、減収減益となりました。

3) 養護老人ホーム（定員 60 名）

本年度のサービス活動収益は 135,055 千円と前年より 16,316 千円増加しました。一方、サービス活動費用は 134,868 千円となり前年度より▲6,689 千円となりました。サービス活動費用のうち、人件費は 56,193 千円で前年度より▲5,875 千円となり、その他費用は 78,674 千円で前年より▲813 千円となりました。その結果、サービス活動増減差額は 187 千円で前年度より 23,005 千円増加し、増収増益となりました。

本年度の活動結果と前年実績との主たる差異要因は、積極的な営業活動が実を結び、年間平均入所者数（入院者数を除く）が 52.9 人と前年度（44.9 人）を大きく上回ったことによるものです。

（感染症）

ふれあいの丘では本年度に感染症の発生事例は生じませんでした。

4) クローバーの丘

(1) クローバーの丘事業活動

本年度は平成 30 年度のサービス活動増減差額よりも増加することが出来ました。結果全体でサービス活動収入は 296,357 千円で前年度よりも 11,324 千円増、人件費は 192,752 千円で前年度より 3,506 千円増、その他支出は 89,275 千円で前年度より 1,905 千円減、サービス活動増減差額は 14,329 千円で前年度より 9,723 千円増となり、増収増益となりました。その主な理由としてデイサービスが要員を削減し、人件費減に伴い収益を改善できました。

(2) サービス区分ごとの概要

- ① 特養は 1 日平均 28.4 名（前年度 28.2 名）と目標（1 日平均 28 名）を上回りました。結果サービス活動収入は 158,372 千円と前年度より 4,134 千円増、人件費は 97,976 千円と 4,477 千円増、その他費用は 54,760 千円で前年度より 1,640 千円減、サービス活動増減差額は 5,634 千円で前年度より 1,296 千円増となり、増収増益となりました。理由としては稼働が目標を上回りました。
- ② デイサービスは 1 日平均 26.3 名（前年度 25.0 名）と目標（1 日平均 28 名）を大きく下回る活動となりました。結果サービス活動収入は 69,703 千円と前年度より 2,358 千円増、人件費は 49,876 千円で前年度より 5,218 千円減、その他費用は 17,726 千円で 677 千円増、サービス活動増減差額は

2,099千円で6,897千円増となり、増収増益となりました。理由としては稼働目標に対しては下回りましたが、前年稼働よりも上昇した事と要員を見直し人件費が削減できました。

- ③ ショートステイは1日平均8.9名（前年度9.2）と目標（1日平均9名）としていた活動を下回りました。結果サービス活動収入は45,885千円で前年度より69千円減、人件費は24,515千円で前年度より298千円増、その他費用は14,360千円で447千円減、サービス活動増減差額は7,008千円で80千円増となり、減収増益となりました。ただ、前年度と大きく活動状況に変化はありません。
- ④ ホームヘルプサービスは1日平均20.8件（前年度17.1件）と稼働を上げました。結果サービス活動収入は22,396千円と前年度より4,901千円増、人件費は20,383千円と3,948千円増、その他経費は2,425千円で497千円減、サービス活動増減差額は▲412千円で前年度より1,450千円増となり、増収増益となりましたが利益を出すことは出来ませんでした。理由としては令和元年度下半期に職員の退職に伴い、稼働が伸びませんでした。

(3) ご利用者様の状況

(感染症)

クローバーの丘では本年度は感染症の流行はありませんでした。デイサービスでは初期対応を徹底しました。その結果流行を防げました。

5) 長野こども学園

本年度は、「認定こども園」としての2年目になります。

会計においては、年度途中の10月より満3歳（1号認定）以上の園児に対して保育料無償化が始まりました。4月当初、3歳クラスから5歳クラスで1号認定は14名でしたが、無償化に伴い2号へ変更される方が多数おられ、昨年度の1号認定の確保とは違って、本年度の1号認定確保は、満3歳児（2歳クラス）の1号への変更を働きかけることになりました。

このような月単位での1号⇔2号への変更や無償化に伴い、給食代の設定や教育指導料の見直し、保育料の直接請求など事務量の増加に驚愕しています。

その反面、保育士の確保が比較的上手くいき、加算が昨年度より多く見込まれ、前年度の施設給付費の約20%増の142,625千円となりました。また補助金の方でも、前年度より約19%増の10,412千円となりサービス活動収益184,652千円になりました。この結果、本年度は20,000千円の積立をすることができました。

今後は、無償化により、1号認定は満3歳を迎える園児が主に利用する状況ですが、月単位での1号への変更や0歳・1歳児の確保により、公定価格の増

を図っていきます。

学園の運営面においては、既に5年の実績を踏まえ、「躰」と「学び」の両面から質的・内容的にも充実した取組が実践できたところです。

「躰面」では、学園の中で、保育士がきめ細かく注意するとともに、できていないところをきちんと指導しています。保護者には、家庭の躰として見本を見せて実践するようお願いしています。指導者（外部講師）として入っただいている先生方からは、「子どもたちは、きちんと先生の話聞いて、注意もしっかり耳を傾けてくれるので、とても指導しやすいです。」という声をよく伺います。

「教育面」では、どの分野も指導者方の牽引力や保育士のフォローが良かったこともあり、大きな成果が上がったと感じています。

本年度、「和太鼓指導」では、太鼓の上に乗って叩くというパフォーマンスを、運動会と歌・謡・奏において発表しましたが、大きな反響を呼びました。

「体操教室」でも、マットや鉄棒・ボール運動や縄跳びなど、多様な技に挑戦し、その力は指導者が驚くほど、きちんと身につけてきたように思っています。

「造形教室」では、個々の園児の良さを引き出して、見ていてとても心の落ち着きを感じられる作品や、嬉々として取り組む子どもたちの姿に、驚くほど興味・関心の高い内容の指導をしていただきました。

「水泳教室」も、学園での取り組みを受けて、家庭でも入部するという子どもも増えてきています。子ども達を見ていて思うのは、何より楽しく精一杯取り組む姿が見られて、とてもたのもしく感じています。

「右脳教育」では、お楽しみ会においても、百人一首や国旗・地図記号・漢字のフラッシュカードを大きな声でテンポよく発表し、保護者の方を驚かせていました。

園児数の推移もほぼ一年間空きを出すことなく、転出すればすぐ入園するという状態で、ほぼ定員一杯の状態です。また、学園見学の保護者も増加し、40名を超える方が、平素や入園前に見学されるようになってきました。そのなかで、学園の取組を聞かれて是非入園したいと申し出ていただけるようになったのは大変嬉しいです。

上記のように本格実施に至る5年間の取り組みは、「躰面」・「教育面」共に、着実に子ども達の生活になじみ、和太鼓や右脳教育では、学園外でもその存在を披露できる場所までになったことは意義深いものがあります。

本年度に向けての改善点は、朝の指導のあり様について、9時の登園後、脳と体の活性化に向けて、お始まり等における立腰教育の徹底と右脳教育での反復練習、更に体操指導による反復することの楽しさを覚え、一日のスタートのめりはりをつけさせたいと考えています。

* 令和元年度 園児数の月別推移

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	1号	合計
4月	12	20	23	18	23	17	113	14	127
5月	12	20	23	18	23	17	113	14	127
6月	12	20	23	18	23	17	113	14	127
7月	15	20	23	18	23	17	116	14	130
8月	15	20	22	19	23	18	117	13	130
9月	15	20	20	19	23	18	115	15	130
10月	15	20	18	22	23	20	118	12	130
11月	15	20	17	23	23	20	118	12	130
12月	15	19	17	23	22	20	116	13	129
1月	15	19	17	23	22	20	116	14	130
2月	15	19	16	23	22	20	115	15	130
3月	15	19	16	23	22	20	115	15	130
計	171	236	235	247	272	224	1385	165	1550

* 主たる実施行事

4月	1日	入園・進級式	10月	8日	秋の遠足
	23日	4・5歳児遠足		27日	ほのぼのフェスタ
	26日	こどもの日のつどい	11月	8日	内科検診
5月	14日	交通安全教室		16日	歌・謡・奏発表会
	28日	眼科検診	12月	6日	お餅つき
6月	4日	歯磨き指導		14日	作品展
	7日	内科検診		20日	クリスマス会
	13日	耳鼻科検診	1月	31日	節分の日の集い
	27日	歯科検診	2月	15日	お楽しみ会
7月	4日	七夕の日の集い	3月	18日	マラソン大会
	13日	夕涼み会		28日	ひな祭り会
	26日	お泊まり保育		3日	お別れ遠足
	27日	お泊まり保育		14日	卒園式
9月	28日	運動会			

* 毎月の行事

- 右脳教育 ○和太鼓 ○体操教室（ゴーゴージャンプ）
 ○造形教室（つくってあそぼ） ○避難訓練 ○誕生会

* 毎月の配付物

- 園だより
- クラスだより

* 地域支援活動

- ふれあい保育・体験保育・一緒にあそぼ……未就園児対象
- 職場体験……中学生対象
- ボランティアの受け入れ
- 潜在保育士体験保育の受け入れ
- 保育実習の受け入れ

6) あゆみ保育所（大阪南医療センター内保育施設）

本年度のサービス活動収益は 51,692 千円で前年度より 1,892 千円増、サービス活動費用は 42,725 千円で前年度より 5,849 千円増となりました。サービス活動費用のうち人件費は 38,648 千円で前年度より 5,181 千円増となり、その他費用につきましては 4,077 千円で前年度より 668 千円増となりました。

この結果、サービス活動増減差額は 8,967 千円で前年度より 3,957 千円減となりました。

病後児保育においては、従来から大阪南医療センターの職員の方のお子さんを対象にしてきましたが、さらに令和元年 12 月からは河内長野市民の方のお子さんを対象とすることになり、順調に運営しております。このため本年度のサービス活動収益は前年度より増加しました。また、人件費増は、上記病後児保育の事業拡大及び前年度の保育士 1 名欠員を本年度は保育児数増のため通常配置にしたためであります。

なお、年間を通して重大な事故及び感染症の発症もなく推移しました。